

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakaisushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目一八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話(03)337714649

FAX(03)329915367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額 700円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言

「ユニオン強化への「提言」」

滝野 忠……………2

新自由主義反対は闘いの基軸になるか

原 野人……………3

― 独占資本に反対し孤立させることこそ不可欠 ―

「反・脱原発」への基本視点……………5

― 原野人さん 小出祐章さんに学ぶ ―

不当な評価を撤廃せよ……………6

― 「日本郵便非正規労働者の権利を守る会」結成に百二十人超 ―

政治を楽しく考える……………8

― どうなる安倍自民党政権とその矛盾の展開 ―

絶対にあきらめない ― 「上京行動」から思うこと……………11

― オスプレイ、普天間反対闘争 ―

読者からのおたより……………10
……………13 編集部だより……………10

刊 旬 社 会 通 信

NO. 1139

二〇一三年三月一日号

二〇一三年三月一日発行
(毎月一日・一五日二回発行)

ユニオン強化への「提言」

十年程前にもなるだろうか、連合の文書に「典型労働者、非典型労働者」との言葉があった。私「典型労働者はどんな労働者のことですか。」 答え「わかりやすくいえば正社員です。」 私「非典型労働者は？」。答え「非正社員です。」 さらに続けて私「非典型労働者は増え続けます。近い将来、非典型労働者が多数となり、非典型労働者が「典型」労働者になります。」その時、今の言葉使いの見直しは必至になりますね」と。

これは、言葉遊びのように思われるかもしれない。ここに示される本質は社会・経済全般の傾向を深く考えることなく、現象をその場で処理して「よし」とする労働者階級の側の知恵の浅さだ。童顔でチョコレートのような顔つきの森永卓郎―今、テレビの人気者―が、「年収二百万円、三百万円で生活する法」なる本を出版し大いに人気を得たのがちょうどその頃だった。森永氏は賃下げのすすめ、貧乏暮らしのすすめで、二百〜三百万の労働者の年賃金を十倍、二十倍超える印税にして手にしたにちがいない。「貧乏ビジネス」である。

森永氏は、賃金を切り下げたい、それには労働市場にあふれかえっている過剰労働者を安く、かつ景気変動に素早く対処したいとする「経営者」に、「ドンドン不安定雇用労働者をおつくりなさい、ぼくは彼らに貧乏暮らしをなれさせます」と宣言したのである。外食産業はすぐさま反応し、「牛丼〇〇円値下げ」の大競争が始まった。私が愛食した駅ソバも同じで値段は下がる。衣料等の日用品は労働賃金が日本の十分の一から五十分の一のアジア諸国でつくられる。百円ショップ繁榮はそれである。

IT、ME技術革新は、第二次産業革命といつていい状況をつくった。十八世紀中葉からの産業革命は機械装置が手工業を追い払い、熟練職人を労働者に変えた。そして今、IT・ME技術革新は熟練労働者を単純労働者に変えた。複雑労働は単純労働にほぼ置き換えられた。労働者の知的水準は高等教育の発展で向上する。かつては単純な肉体労働の反復が、パソコン相手の単純作業となった。

経営者はどう考えるか。必要な要員は本社直属の企画・管理・研究にかかわるもの。あとは不安定な労働条件において、有能と思われる者は引き上げる。そうでない者はやめさせる。代わりは掃いて捨てるほどいる。これが労働法制の規制緩和の眼目である。

編集子はユニオンの機関紙・誌がいつ届くかと首を長くして待つ。不安定労働者を組織するユニオンの会員、賛助会員でもある。なぜか。全国ナショナルセンターは政策はある。しかし、下からの労働者らしさにあふれる運動がない。ユニオンには一人ひとりの息吹を感じさせる運動が活動、学習、仲間づくりがある。

ユニオンの学習はすごい。情勢、法、事例等々。学習で改善してほしいことが一つある。資本主義とはどういう社会か、不安定雇用労働者がなぜふえ続けるのか、若者失業なぜ多く、恋愛すら禁じられる背景はなにかである。

(滝野 忠)

新自由主義反対は闘いの基軸になるか

— 独占資本に反対し孤立させることこそ不可欠 —

独占資本はなくなったのか

科学的社会主義者の多くの諸兄が、独占資本という言葉を使わなくなって、どのくらいになるだろうか。

かなりの昔、成田知己社会党委員長の、地方での集会の演説草稿をお手伝いした時に、「独占資本の数が多すぎる。このような硬い言葉は少なくともした方が良い」と、ご自分で数を大分減らされたことが思い出される。なるほどと、それ以来どこに書く場合でも、一つの文の中に、この言葉を乱用することは自粛してきた。しかし本誌以外の極めて硬い諸論文からこの言葉がすっかり姿を消してしまったのは余りにも寂しい。

硬すぎる言葉だからではなく、グローバリゼーションが大資本を独占資本でなくしてしまったという認識があるらしい。向坂先生も成田さんも驚き呆れるに違いない。

国際的性格が発展する中で

福島原発の事故は、あらためて独占資本の支配を白日の下にさらした。今日の国家と、独占資本はいかなるものか、両者はいかに一体化しているかも明白となった。

資本の本性として国際化は進み、グローバリゼーション、多国籍化が進むほどに、独占資本は国際的競争を激化させながら、提携や買収を進め、ますます巨大化している。東芝が、米国の収奪者の雄の一角であるウェスティングハウスを収奪してしまうなどと、だれが予想しただろうか？

マルクスは『資本論』の中で「資本主義的蓄積の歴史的傾向」として「世界市場網への世界各国の組み入れ、およびそれとともに資本主義体制の国際的性格が、発展する」として、「この転形過程のあらゆる利益を横領し独占する大資本家の数の不断の減少とともに、窮乏、抑圧、隷従、墮落、搾取の度が増大する」、「資本独占は、それとともに、かつそのもとで開花した生産様式の桎梏となる」、「資本主義的私有の最期の鐘が鳴る。収奪者が収奪される」と資本主義的蓄積の核心を明らかにしている。マルクスの天才は、先進資本主義国にまだ独占資本が成立する以前に、「資本独占」と資本主義的蓄積の法則の行き着く先まで明らかにしている。「国際的性格が発展する」と、独占資本ではなくなるなどという非科学的見方はとらない。その逆である。

労働者階級の反抗はどうなる

世界中の独占資本は、「訓練され結集され組織される労働者階級の反抗も増大する」のを抑え込み、収奪者を最終的に収奪する力が育たないように、あらゆる手段を駆使している。日本では連合大単産幹部がマフィアに買収されて子分に成り下がり、原発を容認・推進し、各社の大量首切りや「いじめ部屋」をも黙認して、独占資本への「隷従、墮落」の頂点に達している。

独占資本はマスメディアも支配し、多くの評論家や学者を配下に収めている。子どもも観るテレビでは連日、殺人や暴力や頽廃で満たし、労働者の思考力を奪い、歴史的な自覚と階級的成長を抑えて、永久的にマフィアの支配下におこうとしている。

資本主義的情報の氾濫と過労の中で、労働者が仲間とともに資本と闘い学習することは極めて少数にされている。人口が減る中でさえ、多くの人がびとがなぜ失業しなくてはならないのか、高額な教育費をかけた子どもたちが何故まともな職に就けないのか、などを労働者自身が学習・理解することさえ困難にされている。

しかし三池労働者の闘いや、国鉄労働者の闘いを継承発展させようとする力を消し去ってしまうことはできない。独占資本の法則的作用は、反作用として労働者階級の反抗を促さずにはすまない。

本誌二月一日号の巻頭言が書いてるように、昨年夏の集会を成功させた七つの労組は、昨秋に「脱原発社会をめざす労働者実行委員会」を結成し、この二月一五日には第二回集会を開いた。そこで「脱原発労働者宣言」を発し、「脱原発職場宣言」運動を提起している。この運動は広がり深まる条件を持っている。

新自由主義反対は闘いの基軸になるか

我々の闘いは単に新自由主義に反対するだけにとどまらない。それだけなら民主党的海江田万里代表さえも、国会会の代表質問で大いに強調したところである。

弱肉強食は、資本が誕生した時からの資本主義的蓄積の本性である。

我々は反独占資本を基本に置く。電力の自由化や発送電分離等々の規制緩和は、反独占（資本）の立場から支持・推進するのであって、新自由主義の一部だからとして反対するわけにはいかない。

地震列島に五四機もの原発が造られたのは、ケインズ主義の要素はあるとしても、新自由主義によるものではない。基本的な理由と経過は拙著に書いた通りである。

もし新自由主義反対を闘いの基軸に置くとすれば、民主党とも、生活の党とも、連合幹部とも共闘しなくてはなるまい。もしかすると、安倍晋三、竹中平蔵氏らと距離を置くとされる麻生太郎氏らとも共闘しなくてはならなくなる。

新自由主義かケインズ主義かといった問題は、使用済み核燃料を再処理するかしないか程度の違いであって、決して小さくはないが、改憲か護憲かとか、原発容認か脱原発かというような闘いの基軸に据える性質の問題ではない。

独占資本は、アルジェリアで起きた不幸な事件にかこつけて、一方では自在な海外派兵と戦争のできる国にするために、憲法を改悪しようとしている。集团的自衛権の行使を開始し、武器輸出を拡大しようとしている。

他方では、化石燃料の輸入が困難となり、円安も加わっていよいよ高くなるとして、原発の稼働と使用年数の延長と建設へと誘導しようとしている。お荷物となっている敦賀原発等は生贄的に廃炉としながらも、多くを補助的工事で糊塗しつつ。

東芝、日立、三菱、関電、東電等の独占資本が作った国策会社は、忠実なる安倍政治部長をベトナム等へ派遣して、原発輸出を促進している。

（原 野人）

「反・脱原発」への基本視点

—原野人さん 小出祐章さんに学ぶ—

一九五四年 『確かな脱原発への道—原子力マフィアに勝つために』の冒頭、原さんは「原子力マフィア」と呼ぶ方がふさわしい：人々の命や健康よりも、儲けや利潤を上におくボスが君臨しているから」と述べています。

日本で初めて原子力予算が計上されたのは一九五四年、原子力基本法などの制定は一九五五年、石炭産業合理化で何十万人の労働者の首を切り、その家族の生活を破壊しながら、膨大な独占利潤をもたらすことが期待された原子力にも、国家が前面に出て開発を開始した。この著書と小出さんの講演記録から、簡単にまとめてみます。

五つの原発集団 一九五七年に国際原子力機関（IAEA）が設置、アメリカでの原子炉開発を見て、日本の旧財閥系企業を中心に、たちまち五つの集団が組織された。経団連と電気事業連合会などで日本原子力産業会議を作ったのも一九五六年。三菱・東芝・日立などが技術導入を始めた。経費は企業集団負担でなく、巨額の税が使われ、今日の原子力研究開発機構となっている。

東電・関電とも原発を一社で先行の危険を避け、九電力や産業グループ、金融機関などの共同出資で日本原子力発電株式会社を一九五七年設立、一九六六年、東海村で日本最初の原発営業開始。東電・関電が後を追いつ、七電力もこれを追った。

特別会計 電源開発促進対策特別会計＝電源特会は一九七四年、田中角栄政権下で作られた。電源三法が作られ原発を造る地元には多額の交付金が届く。財源は税、電気料金に上乗せされている。二〇一一年度は約三千億円。二〇〇七年度には特会と石油関係の特会が統合され「エネ特会」となった。原子力推進関係予算は、過去一〇年間で四兆五千億円、そのうちの四割が「立地対策費」。

特会は一般会計と違って、国会のチェックがほとんどきかず、幹部官僚や族議員や各種マフィアがはびこる温床。立地の地元には町づくりと運営の基として、交付金なしでは立ち行かなくさせ、原発の新増設誘致を促してきた。運転開始三〇年を過ぎた古い原発が立地する所や、プルサーマルを認めた所に新たな交付金の支給も始めている。

原発立地計画 経産省マフィアはメディア監視、文科省マフィアは教科書検定で安全神話を子どもに押しつけた。田中角栄氏やその取り巻きや後継者たちは、この特会を利用してだけではない。

原発立地計画を早く知り、広大な用地購入・転売で何億円もの利益。東電などの政治献金も巨額。七四年以降は組織的な「個人献金」に代わっただけ。

自前の核武装ができる能力保持 原発になぜこだわるのか。電力会社にとっては、「総括原価方式」が極めて好都合。投下した資本に比例して、法的に「事業報酬」として独占利潤を確実に上乗せして電力価格を決めることができる。日本の電気料金は世界でも抜群に高い。八三年度比較でカナダの三・二倍、仏の二・一倍、アメリカの一・

七倍。

中曽根康弘氏をはじめ、若きは松下政経塾を卒業した面々の多くなど、原発を持つことを、いつでも自前の核武装ができる技術的・産業的能力を保持しておくために必要だと考えるマフィアも少なくない。安全性も経済性も成り立たない核燃料サイクルも、既に一〇兆円の巨費を食ってしまった。

一兆円もんじゅ、他国はとつくに廃止 高速増殖炉、先行した仏は一九九八年、独は一九九一年にそれぞれ廃止、米は一九九〇年代までに中止。日本は一兆円をかけて作り事故、動かせないが維持費は毎年五〇〇億円。この地震列島、冷却材の大量のナトリウムが漏れ出すと、空気に触れれば激焼、水をかければ爆発、悪夢の炉。それでも持ち続けるのは、プルトニウムを四五トンもためこみ、外国から核武装を疑われる隠れみのだろうか。

高レベル廃棄物の行方 使用済み核燃料は既に各原発と青森に二万四〇〇〇体、これから一〇年間も稼働させると四万體にもなる。天然ウランと同じ放射能レベルになるまでには数万年かかるとされる。

天然には存在しないプルトニウムが含まれるが、それが一〇〇〇分の一にまで減衰するには二四万年を要する。半世紀の一時貯蔵後に、地下三〇〇メートル以深に最終処分とされる。強い放射能と熱によりジルカロイ（ジルコニウム合金）の燃料棒も、ステンレスの容器も劣化・破損は時間の問題、中身も地下水に溶け出しやすくなる。地震列島に適地などない。

原野人さん 部分的なレポートになりましたが、まだの方は是非とも一読して下さい。「新潮社」二〇一二年九月二五日 第一版 ￥一八〇〇。原野人（はらのびと）さんは、四一年前に女川で学生・小出さんに会っています。

一九七一年社会党の政策審議会に入ったが、当時はどの政党も原発反対方針は取っていない。一年近くかけ各地の反対運動とも連携しながら、七二年一月党大会で反対運動決議実現！運動は総評とも連携し全国展開！中曽根の国鉄分割民営、総評・社会党解体、原発推進加速の中、福島事故！…今こそ運動が問われています！

（脱原発 姫路通信 No.9）

不当な評価を撤廃せよ

—「日本郵便非正規労働者の権利を守る会」結成に百二十人超—

日本郵便非正規労働者の権利を守る会の結成総会は、一月二四日午後七時から尼崎市立労働センターで開催しました。総会には裁判を闘う福本さんを支援しよう、郵政正規・非正規の労働者が多数参加しました。武庫川ユニオン、県内のユニオンからも駆けつけ、準備会の予想を上回る一二〇人以上が会場を埋めました。

守る会準備会は、長田郵便局で働く福本慶一さん（日本郵便非正規ユニオン委員長）に対する不当な人事評価を許さず、これを撤回し、切り下げられた賃金を回復するこ

と。そして同じように不当な評価や差別によって怒りや疑問を持ちながら働いている非正規と連帯し、闘いの輪を拡げようと議論を重ねてきました。

結成総会の成功を受け、いよいよ福本裁判がスタートします。勝利のためにみんなで頑張りましょう。

選択肢は「闘う」こと

総会では守る会準備会代表の酒井浩二さんがあいさつに立ちました。

「郵政職場では非正規に対する不当なスキル評価だけでなく、自爆営業を強要し、ミスや交通事故があれば人間の誇りを傷つけるような罵声を浴びせられる。大幅な赤字が出ても経営陣は責任を取らない。そんな職場を変えるのは『おかしいことはおかしい』と言える労働者を作ることだ。

不当極まる評価によって賃金が下げられた場合の選択肢は三つある。一つは黙って我慢する。二つは見切りをつけて退職する。三つ目はこうも簡単に賃金を下げられたりする事態を許す訳にはいかないと闘いに立ち上がることだ。

不当なスキル評価は今に始まったことではないが、一体どれだけ多くの非正規労働者が泣き寝入りを余儀なくされているのか。

福本くんは裁判を闘うにあたり、自分のためだけでなく同じような思いを持った多くの非正規のために闘いたいと決意を語っています。参加者の皆さんが職場の現実を他人ごととせず、福本裁判と向き合い、反撃の一步を踏み出しましょう」と福本さんの決意に応えようと訴えました。

六つの不当性

続いて、準備会から非正規労働者の賃金と人事評価の仕組み、管理者の恣意性について報告。福本さんに対する人事評価がいかにも不当であるかを以下の六点到整理、守る会結成と運動方針、役員提案があり、これを全員の拍手で確認いたしました。

▽福本さんの遅刻は三〇分、始業前に連絡しました。基礎評価給は「無届けの遅刻・早退：欠勤」の場合は支給されませんが、福本さんはこれにあたりません。

▽基礎評価とスキル評価は別々に評価するのが制度の本旨です。遅刻があったからとスキル評価に連動させることは制度に反します。

▽正社員が遅刻をしても賃金カットだけです。非正規だけには非常に厳しい時給の切り下げがあるのは全く不公平で、差別そのものです。

▽福本さんのスキルランクは「A―習熟あり」でした。「A―習熟あり」は正社員登用の条件です。不当な評価でこれを閉ざすことは許されません。

▽基礎評価給と資格給の連動は近畿だけ、郵便事業会社以外の四社では起きていないのです。

▽基礎評価とスキル評価の連動は、事業会社と郵便局会社の統合以降は連動させないことを決めています。廃止する制度で福本さんの時給を切り下げたのです。

一回の遅刻で時給二一〇円切り下げ

弁護団の森博行さんからは「今年四月から有期の労働者に大きな関わりにある法律

が施行される。労働契約法第二〇条だが、期間の定めがあることを理由に労働条件に差異をつけることに合理性がない場合は無効となる。郵便事業の正規一〇万人、非正規一五万人が同じ仕事、同じ責任があるのであれば、片方に重い罰を与えることは違法となる。何か違うかと言うと期間の定めがあるか、ないかの違いだけだ。これは労働者の武器になる」と労働契約法の解説がありました。

小谷弁護士からは福本裁判の訴状について説明がありました。「一回の遅刻で二一〇円の引き下げは、賃下げ率では一四%になる。これが非正規だけにあるのは不合理だ。基礎評価給一〇円切り下げの不当性の証明はわりと単純だと思ふ。基礎評価とスキル評価の連動の違法性をどう立証するか考えている。

被告に求めるものは損害額だけでなく、福本さんが『A―習熟有り』であることの確認を求めたい」と報告がありました。

福本さんの訴え

「日本郵便非正規労働者の権利を守る会にお集まりいただきありがとうございます。長田郵便局で働き始めて一〇年ですが、私以上に長く働いている非正規も多いのです。正規と変わらない仕事と責任を負いながら、賃金や労働時間の切り下げと雇用不安の中で働いてきました。

四年前、会社から一方的に八時間勤務から六時間へと短縮が言い渡された時に、『日本郵便非正規ユニオン』を結成することで、その撤回を勝ち取ることができました。

昨年八月、私の六ヶ月契約の更新の際の人事評価で、時給二一〇円の切り下げが通告されました。私は怒りに震えながら理由を聞きました。すると、日々の仕事に問題はないが、三〇分の遅刻は時給二一〇円の減給に値するシステムになっているということです。正社員であればこれほどの賃下げはありません。非正規だからといってこんな差別的なことは許されません。闘いにあたりぜひとも守る会の拡がりにも力をお貸しください」と訴えました。

政治を楽しく考える

― どのような安倍自民政権とその矛盾の展開 ―

民主から自民へ 一月、数多くの会合に出席、問題意識は単純です。十二月総選挙への反応、これからへの心意気はどうか。雰囲気はエンマ様に魂入れられたこととくです。三年前の総選挙は自民を地獄に落とし、民主への空虚な期待に沸き立ちました。『通信』はそれと一線を画し、民主は「誰がなんの目的でつくったか」との視点から、「民主は第二自民党、幻想は禁物、烏合の衆の党だから分裂必至」と論じ続けましたね。民主党の最後は『通信』が論じたとおりとなりました。

『通信』の姿勢から私が学んだことは、情勢を「こうあればいい、あってほしい」との想いからではなく、政治を動かす背後の最も悪い輩がどういう政治をつくるために暗躍しているかと冷静、冷徹、客観的に読み解かなければ、でした。こんな思いから、『通信』にならって、これからの政治を「楽しく」見ていくために、安倍自民党

政権の矛盾がどう展開していくだろうかと考えてみました。

口先き介入 安倍首相支持率（人気度）はなんにも仕事していないのに、天まで上がりました。これ以上は上がりようのない七〇％です。これから下がるだけです。なぜ支持率が高いかの理由は安倍の金融・財政・成長政策を財界、官僚、メディア、とりわけ投機を業とする金融業者が、「日本も米国のような投資・投機国家に変身」が後押しし、アベノミクスなんて「幽霊」出没がその象徴ですよね。円が下がる、株は上がる、と兜町（金融街）は沸き立っていることは株価取引量が示しています。

金融当局、政府、メディアは「デフレ克服への芽が見えた、ふくらんだ」と。『明るさ』を強調することに大童です。経済は心理で好転するかのようにです。日銀総裁候補、経済閣僚は百円前後がふさわしい。株価は一万五千円まではいくと、株式・為替操作発言が続いています。「口先き」介入は、経済実態を押し上げるのか、課題はこれからです。

新人一五人 衆院選は自民党大勝でした。政治経験はむろん、党活動などやったことがない出世主義者、欲の皮の突っ張った、目立ちたがり屋です。国会議員個人は四八〇分の一でしかありませんが、権力者の一員です。利権がついてまわります。ダニやシラミのような小さな寄生虫からサナダ虫のような国会議員の生き血を吸って肥え太る連中がわんさか押し寄せます。

新人議員は増長し、生意気になり、党制を乱す大きな原因になることは、最近の二〜三回の衆院選だけでなく古今東西の歴史が示しています。党執行部は勉強しろ、党の習慣を身につけると「引き締め」に躍起ですが、先生先生とまとわりつく下司野郎から解放されることは容易じゃありません。

PPP 勝ち過ぎは政策実行にも影響せずにはおきません。自民は二百九十四議席を手にしたのです。日本最大の農業基地・北海道は十二選挙区を独占、米所である青森・宮城・秋田・新潟・富山では宮城五区を除いてすべて独占しました。

ここで焦点になるのはPPP（自由貿易）、とりわけ農業自由化をめぐる問題です。農業が「例外なし」に自由化されればどうなるか、壊滅必至でしょう。農業人口は二百万人超、農協等の関連事業を含め有権者数は数百万人。農業自由化を推進する自民党議員は、「農産物生産高がGDPに占める比は十兆円のたかだか二%、こんな産業に農業補助金が数兆円をばらまかれていて。農民には選挙で通す力はない」とアカラさまに吠えまくる者すらあらわれています。この議員は農民票は通す力はなくとも、「落とす力」は十分すぎるほど残っていることを考えていないようです。

安倍は二月二一日訪米します。ここでの焦点はPPPであることは明らかです。オバマに「参加したい」「もう少し時間くれ」と懇願し、帰ってくるのでしょうか。参院選まで五ヶ月、「聖域なき関税交渉」に追い込まれば、農村地域での苦戦はまぬがれませんか。

二・五%成長 消費税引き上げも関心の対象です。消費税率は十四年四月に三%上げの八%、十五年十月から一〇%が国会で決まっています。これは「二・五%成長」が

前提です。「デフレ」の本質は需給ギャップ、つまり需要より供給が多い過剰生産状態がその本質です。賃金は上がりません。不安定雇用労働者がふえつづけます。彼ら消費を促すために安価な食品、商品がぞくぞく開発されます。今や清涼飲料水となったビールがそのいい例です。

企業は賃下げ、剰余金Ⅱ内部留保金の投機操作で利益をふやします。円安は石油、ガス、価格を高くしています。それら資源を輸入する会社、資源を製造する会社、ガソリン・軽油・ガスを売る会社はすべて独占資本です。石油・ガスを購入する電力会社も独占資本です。彼らは市場を独占していますから、値段は自由に設定できます。負担は一方的に国民の九〇％を占める労働者に押しつけられます。

物価は上がった。GDPは上がりず経済回復の兆しは鈍いということになれば、消費税率は困難。それとともに、今は財務省すら「お蔵入り」させ、財政赤字大宣伝は小休止だが、国の借金は二〇一二年末で九九七兆円、十三年末には一〇一六兆円とGDP比で二倍を超える。財政規律が政治の前面に躍り出るのも時間の問題となる。

健康問題 もう一つ、だれもが注目している安倍首相の健康問題がある。安倍には六年前、政権を放り投げた前歴がある。潰瘍性大腸炎という持病、難病であるという。

新聞は毎日「安倍首相の一日」を政治欄左隅に掲げる。首相の行動は分刻み、精神的強靱さはむろん肉体的強靱さが求められる。安倍は医師の管理下にあるようだ。スポーツクラブ（フィットネスクラブ）に日参し、人間ドック。安倍は毎日九時前後に富ヶ谷の私邸に戻る生活で、健康維持に腐心しているやにみえる。

憲法問題はこれまた矛盾に満ちた展開となることが予想される。次号で論じたい。

◇ 編集部 だより ◇

▽原発爆発から二年たった。復旧が進まないから復興はまだ遠いかなたのこと。被害住民の苦悩の声は大きく深くなるばかりだ。

▽自民復権で原発立地地域は「再稼働」の声が強くなっている。「電気があってこそ、住民の生活があつてこそ」と。これまで沈黙してた議員連中がざわめきだしたと。

▽「反・脱原発」のたたかいは長期になる。新たな備え、陣立てが開始される。三月上旬には「つながろうフクシマ！ さよなら原発大行動」を合い言葉に三つの大きな集会が開かれる。

- (1) 明治公園での大集会(三月九日、午後二時開会)、(2) 全国各地でのとり組み(三月十日)
- (3) 一〇〇〇万人アクション・講演集会(三月十一日、午後六時三十分、きゅりあん)

(4) 「原発のない福島を！」福島県民大集会(三月二十三日、午前十一時、あづま総合体育館)

▽編集子は(1)と(3)に参加の予定。二月十五日に東京・日教組会館で開かれた「福島につながる！原発NO 憲法YES 労働者集会」は、中味の濃い集会となった。くわしくは次号、お楽しみに。

▽『データブック2013』(A5版 56頁 価格五百円)のご案内です。

「反撃はまず事実を知ることから」「現場の労働者が、必要な基礎データを手軽に一冊のデータ集によって手元で確認できるようにしたい」これが、このデータ集作成の変わらない基本コンセプト。

【取り扱い】 1冊〜4冊 [五百円×部数+送料] 5冊〜9冊 [五百円×部数+送料無料]

10冊以上 [五百円×部数×0.8+送料無料] / 10冊以上は2割引となります

【注文方法】 FAX 078-335-1183 メール kimiotsunochi@yahoo.co.jp (津野) く。

【郵便振込み】 〆注文いただき、データブックを送付する際には「振込用紙」を同封します。

「絶対にあきらめない」——「上京行動」から思うこと

—オスブレイ、普天間反対闘争—

1、卒論、何とか仕上げたぞ！

沖縄での二年間という時間の過ぎる早さを、いまさらのように思いながらパソコンに向かっている。そうだよな、二〇歳前後の二年間と六〇代のぼくの二年間とは、三倍のスピードの開きがあるよな、などとおよそ科学的ともいえない結論に自分を納得させながら、それでも濃密な時間を過ごさせてもらった実感に浸っている。

能力をとくに超える試みと思いつつ、何とか卒論も形にすることができそうだ。一時期、卒論の断念を考えた時期があつて、指導をお願いした若林先生からは「毛利さんの場合は、沖縄に来た目的があるでしょう。次の人生につなげていくためにも書いた方がいいですよ」と、柔らかく、しかし絶対に逃げられない形で背中を押してもらった。卒論のタイトルは前々号の「オキナワだより—No.二三」と同じ「私のなかの『釜 鶴松』『渡嘉敷 良子』に出会うために」としている。あの中で書いた問題意識を発展させたものではあるが、およそ論文とはかけ離れた私的散文に近い。

昨年末のことになるが、『旬刊・社会通信』（「オキナワだより」は、時折誌面で取り上げてくれている）の滝野さんから、この「No.二三」にふれたSさんの次の感想が寄せられた。

「社会通信一月一日号の、毛利孝雄さんの文章を読みました。ひとりひとりのかけがえない体験を引き受けるところから、戦後民主主義を再構築していこうとする意欲的なそして倫理的なところみだと思えました。歴史を自分のものにするとは、こういうことなのだとあらためて感じ入りました。読んでいて思わず涙が出ました。…」
このような評価をもらえるような人間でないことは、自分もまわりもよく知っていることなのではあるが、一番苦しかった時期に卒論に向かう気持ちを支えてくれたことにまちがいない。卒業までには、簡単な冊子にする予定でいる。

2、上京行動 沖大生六人参加

一月二六日・二七日の両日は、県民大会実行委員会と県内四一全市長村長ら一四〇人が上京して、日米政府へ空前の直訴行動が取り組まれた。

オスブレイの普天間基地配備強行をうけて、「日米両政府へ沖大生の想いを届けるプロジェクト」を組み、メッセージを集める努力をしてきたばかりの沖大生も、この行動に合わせ六人で上京した。在京中三日間の行程は、ざっと次のような感じ。メッセージを書いてくれた二七〇人の皆さん、激励とカンパで送り出してくれた皆さん、そして東京で出会った皆さん、ともかくいろいろな人たちに支えられての三日間だった。あらためて感謝したい。

【上京行動・三日間の行程】

一・二六 午前—那覇発

午後—『けし風』関東読者会・「連続ティーチン沖縄」を主催する大学人たちとの交流と懇親会

- 一・二七 午前―うっすらと雪化粧の公園で遊んで、池袋のつけ麺屋さんで早めの昼食
午後―経産省前「脱原発テント」訪問、県民大会実行委員会主催「東京集会」に参加、
銀座をパレード
- 一・二八 午前―衆議院議員会館前で激励行動・内閣府へ要請
午後―アメリカ大使館に要請・憲法集会実行委主催の院内集会に参加・那覇着

これらの報告については、別途パンフレットにまとめる作業をしているので、こちらに譲るとして、正直にいうと、この取り組みについて、ぼくはもう少しで取り返しのつかない誤りをするところだったのだ。

プロジェクト立ち上げの中心となったI君から相談を受けたとき、ぼくはこの活動の中心を、基地やオスプレイ問題へのメッセージを書くことを通して、学生たちの中に議論の土壌を作り出す機会になればいいと考えてきた。上京しての要請行動は、いわば最後のセレモニー程度に、そもそも日米政府がまともになど対応するはずもない、そのように考えていた。

ところが、メッセージを集める活動をはじめに際し、I君は普天間基地の大山ゲートと野嵩ゲートで抗議活動が続ける人たちに、まず書いてもらうようお願いしたいというのだった。昨年九月末、市民らの直接行動によるゲート封鎖と機動隊による強制解除、その現場にいた記憶がI君の今回の活動を支えてもいたのである。野嵩ゲートには通っていたぼくが、大山ゲートにも通うようになるのは、I君ら何人かでメッセージのお願いに行つてからのことだから、I君のこのような提起なしには、大山ゲートに集う人たちとの出会いもなかったのである。

続いて驚かされたのは、当初二人を予定していた上京行動の希望が五人、六人とふくらんでいったことである。それは、主体的に活動にかかわった一人ひとりが、メッセージを寄せてくれた二七〇名の人たちの想いを届けるために、最後まで責任を持ちたいという表明でもあったのだ。

そして、ぼく自身の姿勢の誤りに決定的に気づくのは、あらためてボードにレイアウトされた一枚一枚のメッセージを読み返したときだった。そのなかに「絶対にあきらめない。基地も軍隊もいらぬ。―普天間ゲートより」の一枚があった。ゲート前での抗議行動をつくり出してきた一人の伊波義安さんは、「辺野古は一六年、高江は五年以上頑張っている。普天間はまだ四ヶ月ちよつとですよ。私たちも粘り強く頑張りますよ。ね」と声をかけてくれる。ぼくはこのようにしてゲートに集う人たちの想いを、セレモニーとして届けようとしていたのだ。

それから残された短い時間で、「要請文」の練り直しと、六人の一人ひとりが上京する意味を問いなおす作業がはじまった。メッセージを寄せてくれた人たちの想いに応えられているか、上京する六人の納得できるものになっているか。I君は夜遅くまで六人の想いをそれぞれに聞いてまわった。かくして、ぼくたち六人は上京の日を迎えることになったのである。

内閣府、アメリカ大使館への紹介をお願いした糸数慶子参議院議員の力添えもあって、「要請文」とメッセージボードは、直接担当者に手渡すことができ、手交に際し一人ひとりが発言することもできた。そしてぼくにとつては、このこと以上に同行の

五人から教えられることの多かった、数ヶ月間の取り組みだったのである。

3、自分を変える努力

「沖大生六人で上京」と紹介するとき、どうしてもぼく一人は腰が引けてしまうのだ。引率の先生には見えても、どうみても学生には見えない。よく同年代近くの友人からは、どのようにして若い世代と付き合っているのか、と聞かれたりもするのだが、そのあたりのことは四〇歳も離れた学友たちには恐くて聞けない。ただひとつ思い起こすのは、まだ沖縄大学三年に編入した頃の、「今日は一日、誰とも話さなかったな」と自宅に帰って落ち込むことが何度かあった。「学生の中に友だちがほしい」それはその時の何より切実な願いだった。

内閣府とアメリカ大使館を訪ねたあと、ぼくたちは「五・三憲法集会実行委員会」主催の院内集會に参加して発言することになった。代表でマイクを取ったA君二一歳は、こんなふうな話を切り出したのだ。

「：相手を変えようと思ったら、自分が変わることだと気づいた。自分がまず行動して変わること、相手の自分を見る見方も変わっていった。ですから先輩の皆さん！人を変えようと思ったら、まず自分が変わらましよう！…」

なるほど、そういうことか。そして、ぼくが四〇歳離れた学生たちに何とか受け入れてもらえているとすれば、多少は自分を変える努力をしたということだろうか、そんなふうにも考えてみたのだった。

この院内集會では、東京を離れてから久々に会う先輩方もいて、こんなあいさつもされた。

「久しぶり。元気そうだね。帰ってからはどうするか決めてるの？これから沖縄の経験をふまえて何をするかだね」

その通りなのだ。ぼく自身の残された人生の課題に向けて、変わらなければならぬのはぼく自身なのである。こうしてA君のことばはそのままぼくのもとへと返されてくる。

東京から戻って報告のための写真をみんな整理していたら、初めて誘い合って参加した昨年六月の「宜野湾市民大会」の写真が出てきた。

「なつかしい！まだ半年しか経ってないよね。なんかずっと前のことだった気がする」

「あの時はほとんど何も知らなくて、集會に参加してただけだった」
「あれから本当にたくさんさんのことを経験した気がする」

たくさんさんの経験の過程を共に歩めていることを、ぼくは心からうれしく思った。一人ひとりの笑顔がまぶしく輝いていた。
(毛利 孝雄・沖縄大学四年)

◇ 読者からのおたより ◇

鶴彬そして「啄木と秋水」さて、一昨日の日曜日、乱鬼龍さんに句会に誘われ、経産省テントに行きました。今度の金曜日の青空放送には、神田香織先生が出演のようです。みんなで、テントを守

る力になればいいなと、思っています。鶴彬の勉強も少しずつ初めています。今はまだ、啄木の日記や書簡を読んでいます。「啄木と秋水」などと、大逆事件に、与謝野鉄幹、森鴎外、夏目漱石などが、みんな間接的であれ、関わっていることがわかってきました。面白いですね。

あらゆるものが絡みあい、あざなえる縄のごとし、という感じですよ。だんだんと、あの時代のころで、身近に感じられるようになってきました。これらを、どういう軸でまとめるか、考えているところですよ。啄木にこだわり続けることは、鶴彬の勉強のためにも無駄ではないと思っています。鶴彬は啄木を高く評価していたと思うからです。そしてまた、啄木の直面した問題は私たちが直面している問題と共通点も多いように思います。それはまた、鶴彬の直面した問題との共通点かも知れません。佐々木さんもお大事に！ 滝野さんも無理をなさらないように。(東京・K)

編集部より 東京八重洲ブックセンターで開催「啄木没後一〇〇年のシンポジウム」で岩手県在住パネラーの画家と彫刻家二人が「自分の作品は津波で流され跡形もない。百年前の啄木の歌集は今、多くの被災者が読み涙を流しながら共感し元氣貰っている」と語って印象的でした。

定住促進法 本町(山形県遊佐町)も人口減に歯止め、抑制するために定住促進計画を策定し、諸施策・推進体制等を体系化してきました。数字は厳然とした事実を物語ります。二〇〇〇年の三代未婚者男三九・八六%、女一八・六九%が二〇一〇年では男五〇・七七%、女三二・二%、四十四代(つまり十年前三十代)は男三四・一三%、女一八・二七%。少子化になります。(山形・T)

編集部より あなたの所でもそうですか。私どもの回りも一人者ばかり、だれかいけないか、そんな言葉が飛び交う毎日です。

窓口業務委託 昨年七月から当区(東京)の国民健康保険の窓口業務が委託になりました。職員のスキルアップの基本は①研修、②上司からの助言・指導、③接客による自己学習、窓口業務の委託は③の機会を奪うことに！ 徴税担当職員が納付接渉の経験もなく滞納整理を進めることは、滞納者の機微にふれることなく滞納処分(差し押さえ)を進める危惧もあり、この結果、公務労働者と住民の分断もますます進み、かつ職員のレベルダウンが生じます。また同じ職員に労働条件に違い。委託労働者は時給一二〇〇円、社保、一時金はありません。労働者同士が分断、競争させられる。労働強化にあえぐ組合員を見ると委託化反対を訴えにくい事実もあります。(東京・M)

編集部より 「差し押さえ」業務にたざさわっていらつしやるのですか。たいへん！

橋本市長の朝令暮改 橋本市長は口先男、頭は後から反応。というわけで朝令暮改は当たり前、こんな人物、期待できませんね。①学校の校庭を芝生化する↓府の権限とは関係ないことだった。②知事として教育委員会に命じる↓無知で完全に間違っていた、撤回する。③テスト結果非公開なら予算を付けない↓言い過ぎた、よく考え直す。

きわめつけは桜宮高校の暴力、自殺事件。橋下は①国で言つてきかないなら手を出さなきゃしようがない。頭を小突くと体罰だと騒ぐ、こんなことでは先生が教育などできない。②正直、ぼくはクラブ活動のなかでビンタすることはあり得るとみている。暴力肯定。ところが、それに不利となるや突じよ「自分の認識は甘すぎた。猛反省している」。いい加減な人物。(大阪・Y)

編集部より とんでもない「悪タレ野郎」、こんな軽薄な男には選挙というビンタをくらわせ、叩き落とす他ありません。

茨城ユニオン旗開き 中小企業・非正規雇用・未組織の労働者の生活と権利を守るために結成された労働組合「茨城ユニオンの二〇一三旗開きが一月に土浦で開催され、私も顧問として参加しました。茨城ユニオンは昨年、一〇〇件を超える労働相談が寄せられ、一四件の労働争議を勝利的に解決しました。労働者と労働組合の権利についての説明会も、新入組合員に対し実施してきました。

小林賢一茨城ユニオン委員長は主催者挨拶で、労働者の非正規雇用化、低賃金化、無権利化が進み、職場で解雇、残業不払い、パワハラなどが蔓延している中、茨城ユニオンはさらに労働者の要求に応えていこうと、決意を語りました。今年には支部、分会からも挨拶・闘争報告が行われ、日頃は顔田さんのガマの口上も絶好調で、最後はビンゴも大盛況でした。(茨城県牛久市議 杉森ひろゆき)

編集部より 茨城ユニオンの発展ものすごい。さらに発展を。

「金八デモ」 毎週金曜日、八王子原発反対デモ(金八デモ)を行っている。参加者は増えています。相言葉は「原発のない世の中を。放射能汚染のない世界に。地元でも声を」(八王子・S)

編集部より デモ全国でタンポポのように増殖中。たのもしく思います。今回掲載させていたただいた「脱原発 姫路通信」も同様です。